

大分南部地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第3号

発行：令和4年1月6日 大分南部地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

【フォローアップ会議を開催しました】

日時：令和3年11月10日（水）19時～

場所：大分南部公民館 音楽室

議事

1. 会議の公開について
2. 地域まちづくりビジョンについて
3. 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
4. 地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況について
5. 地域での取組状況の報告について



地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取組をまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

□地域まちづくりビジョンに掲げる事業における行政の取組状況について（抜粋）

○提言1「住み続けたくなる、帰ってこたくなる地域づくり」

- ・滝尾駅周辺の整備について地元役員と地区内を歩き、意見交換する中で現状や道路整備に関する要望等を確認した。今後も引き続き、課題の解決策等について地域との意見交換会等で協議を行っていく。
- ・片島松岡線については、平成30年度から引き続き、建物等移転補償、用地買収を実施している。また、曲・津守の地域内の狭隘道路などは、要望に応じ、待避所や交通安全施設の整備を行っている。令和3年度は、市道津守曲1号線など3路線の整備を行う予定。
- ・新駅に関して、駅を設置した場合の利用需要の見込みについて、8月に地域住民や事業所などへアンケート調査を実施した。

○提言2「地域の歴史的・文化的遺産などを活かした地域交流の充実」

- ・地域の史跡を案内・解説する旧跡めぐりサポーターを育成し、史跡めぐりウォーキングの際に、小学生によりガイドをしてもらう事業を実施した。令和3年度も実施予定。
- ・地域ふれあいサロンを、感染症対策を講じながら再開している。
- ・下郡公園については、令和2年度より防災機能を備えた公園としての整備を実施しており、令和3年度末に完成する予定。

○提言3「災害に備えた取組の推進」

- ・片島及び羽田地区の浸水対策として片島雨水排水ポンプ場を建設中。令和4年度中に供用開始する予定。また、水害監視カメラを設置して、令和3年8月より動画をウェブサイトで配信している。

■地域での取組状況の報告について（抜粋）

●南下郡町内会活動と防災活動「安心安全で住みよいまちづくり」

【防災活動】

- ・「令和2年度協働のまちづくり大賞」において、南下郡町内会が、「安心・安全で住みよいまちづくり実現に向けての防災活動」の取組について発表したところ、優秀賞を受賞した。
- ・平成20年度に、南下郡町内会の防災士が誕生し、以降防災訓練等の町内防災活動を開始した。その後防災活動の充実・強化を図る観点から、見直し・改善を推進している。
- ・毎年防災計画を策定し、自主防災会及び住民への周知を行っている。
- ・要支援者に対する対策会議を開催し、戸別訪問を実施した。
- ・防犯対策については、パトロール隊30名を3班編成し、見回り活動を実施している。
- ・町内会活動と防災会活動を融合させるため、自主防災会の役員に町内会の役員を兼務してもらい、町内組長会議の際に防災士による活動報告をしてもらっている。
- ・防災スキルアップのため、災害図上訓練を行っている。



【新駅建設】

- ・令和2年12月にJR九州社長へ新駅設置を要望した。
- ・令和3年8月に新駅の利用意向について、滝尾地区居住者宛アンケート調査を実施した。
- ・こうした活動を展開する中、滝尾地域の発展につながる新駅の建設に向け、皆さんの支援と協力をいただきながら進めていけるよう努力していきたい。



【下郡公園】

- ・名称については、町民公募から「下郡あおぞら公園」と選考し、市長に命名の上申を行った。
- ・公園の開園に伴い、新たにぎわいの場となるよう令和4年度に開園記念イベントを実施する予定。

●史跡めぐりウォーキング並びに旧跡めぐりサポーターの育成について

- ・令和3年3月に地域の方に協力いただき、史跡めぐりウォーキングを実施した。その際研修を行った8人の小学生にガイドをしてもらった。
- ・令和3年度も実施する予定。



■意見交換での主な内容（抜粋）

- ・「滝尾駅周辺の都市づくりに関する勉強会」について情報共有をしたい。
- ・道路整備について、できそうなことから取り組んでもらいたい。
- ・下郡あおぞら公園でのイベントを予定しているのので、参加も含めて協力をお願いしたい。
- ・南下郡の防災活動は、要支援者への状況確認等を含めた避難行動計画を作成しており、非常に素晴らしい取組だ。



●【大分南部地域】

「ふれあい市長室～あなたの地域のまちづくりビジョン～」

今年度は、地域でまちづくりビジョンに関連した活動を行う団体を対象に、活動報告と意見交換を行います。

開催時期：令和4年2月上旬

対象団体：「南下郡町内会」

大分南部地域まちづくりビジョン 概要

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、人口が減少に転じており、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の現状を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、この大分南部地域では地域の活力維持・増進を図ることを目的に、地域の代表者で構成する「地域ビジョン会議」を平成29年5月に設置し、地域の現状や課題などを議論し、地域の将来像として「大分南部地域まちづくりビジョン」を平成30年7月に策定しました。

地域の目指すべき姿(将来像)～自然豊かな温故知新を体感できるまち～

大分南部地域まちづくりビジョン【提言】

【提言1：住み続けたい、帰ってきたい地域づくり】

住民がいつまでも住み続けたいような地域、そして、一度地域を離れた人もいつか帰ってきたいと思えるような地域づくりを望みます。また、子どもから高齢者まで幅広い世代が、いつまでも安心して暮らせるような地域づくりを望みます。

【提言2：地域の歴史的・文化的遺産などを活かした地域交流の充実】

地域に残る滝尾百穴などの歴史的遺産や神楽などの文化的な需要が高い本地域の魅力を最大限に活かし、地域住民同士や地域外の人とも世代を超えて交流できる取組を継続・充実させ、豊かな自然とともに、地域の資源を一体的に堪能できる仕組みづくりを望みます。

【提言3：災害に備えた取組の推進】

南海トラフを震源とする巨大地震とこれに伴う津波や、大雨による河川のはんらんなどへの備えとして、住民による自助はもちろん、地域における共助や国・県・市における公助も重要です。特に、大分川に面している地域として、水害に対して直ちに避難できる安全の確保を望みます。

提言	事業番号	事業名	内容
提言1	1	子育てしやすい住環境の整備	地域内の道路が狭く、通学路を通り抜ける車も多いため危険です。また、地域に子どもが少なくなっており、地域活性化と住環境の改善が必要であることから、道路、駅、公園などの整備を行う。
	2	JRの線路を利用して富山方式の路面電車を走らせる	大分駅から大分大学駅の間に、3～400m間隔で新駅を設置し、路面電車を走らせることで観光客を集めることができ、高齢者にも優しい公共交通となります。
	3	滝尾駅前の広い空地を活用	滝尾駅北西の空地を有効活用できるようにしてほしい。市からもJRに働きかけをしてほしい。
	4	下郡駅の開設とその沿線に防災公園のある桜並木道の整備	歴史に裏打ちされた地域の観光資源を活かすため、人が集まりやすくなる新駅、沿線道路の整備を行う。宗麟大橋の開通により交通量が増加しているため、渋滞の緩和にもつながる整備を行う。
	5	利便性に富んだ街づくり	曲などの地区内の狭い抜け道を通る車が多く危険なため、バイパス道路を整備する。
提言2	6	豊富な歴史を活かした旧跡めぐりサポーターの育成	南部地域の豊富な歴史資源を活用するため、百穴や曲石仏などの地域の歴史を伝える旧跡めぐり子どもサポーターを育成する。郷土愛の醸成につながり、歴史探索などで多世代が交流でき、子育てサークルなども楽しめる機会の創出につながる。
	7	子育てサロン・地域ふれあいサロンなど未来へつなぐコミュニティの充実・拡充	開催回数の増加や対象者、対象地域の拡大など、子育て世代もそれ以外の人もいきいきと交流しやすい環境の整備を行う。
提言2・3	8	下郡に新たな公園整備	3校区の子どもが集まれるような公園を整備し、人が集い、子どもが安心して遊べる拠点とする。駐車場や駅に近接した公園を中心に、地域の活性化を図るとともに、防災公園として防災情報の発信等も行う。
提言3	9	児童と高齢者が安全に避難できる避難設備（インフラ）の整備	避難拠点となる避難所などへの周辺道路の幅員確保などの整備を行う。緊急車両が入れない道路の拡幅、排水路整備など安全安心に資する整備を行う。
	10	安心・安全な地域づくり	昨年の台風18号により地域内では床下浸水が発生したこともあり、防災に役立つ情報を地域の人たちで共有するとともに、防災人材の育成などにより、防災意識の向上に役立てる。